

令和8年度 事務事業評価シート（1）

[令和7年度事務事業]

一般会計					事務事業分類	A 一般事務事業	
事務事業名	療養生活環境整備事業				事業番号	011-219	
担当部署名	健康福祉局	局	保健所	部	保健医療業務課		課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本 計画2025	施策 との 関連	有・無	戦略	—		施策	—		
			無	取組の方向性	—					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—					
			無	現状値	—		目標値	—		
	堺市SDGs 未来都市計 画 2021-2025	施策 との 関連	有・無	ゴール	—		ターゲット	—		
			無	取組	—					
		寄与 する KPI	有・無	指標名	—					
			無	現状値	—		目標値	—		

2	関連計画	—		
3	事業開始年度	平成 8 年度	点検対象年度（堺市基本計画2030）	令和 12 年度
4	実施根拠	難病の患者に対する医療等に関する法律（難病法）、療養生活環境整備事業実施要綱		

事業の概要

5	事業の実施主体	本庁		
6	事業の対象	難病患者とその家族（堺市特定医療費（指定難病）受給者数R8.3.31現在）	対象数	単位
			8,026	人
7	事業の目的	難病患者支援センターにおいて、疾病別の学習会や患者交流会を行い、難病患者の療養生活の質の向上や在宅での適切な医療の確保をめざす。		
8	事業内容	○難病患者支援センターの管理運営を大阪府特定疾患研究会に委託し、患者交流会や疾病別の学習会、患者会活動の支援、ピアサポート等、難病患者支援の拠点として事業を展開する。 ○在宅で人工呼吸器を使用している指定難病患者に対し、医師の指示のもと診療報酬で定められた回数を超える訪問看護を受ける場合、その回数を超えた訪問看護に係る費用を公費負担する。 ○難病患者等を担当するホームヘルパーの資質向上を図るため、専門の養成機関等に堺市の指定により、ホームヘルパー養成研修を実施する。介護職員初任者研修修了者などを対象に、難病基礎課程Ⅰ及び難病基礎過程Ⅱに分けて、各1日を予定。		
	※国・府の基準より上回って実施した内容	—		
9	主な支出先	一般社団法人大阪府特定疾患研究会、訪問看護ステーション		
10	公民連携・協働事業	—		

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

成果指標		単位		実績		目標	目標
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和12年度
11	難病患者支援センターにおける学習会参加者の満足度	%	目標値	100	100	100	100
			実績値	99	100		
			達成率	99%	100%		
	当該指標を選定した理由		難病患者支援センターにおける学習会に参加した患者が、当該学習会の内容に満足し、自らの療養生活に資することで、難病患者の療養生活及び疾病における質の向上が期待できるため。				
目標値の設定根拠・算出方法		難病患者の学習会における参加者アンケートに参考になったと回答された割合の小数点以下を四捨五入し算出					

活動指標		単位		実績		目標	
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	
12	難病患者支援センターにおける学習会参加者数	人	目標値	700	700	700	
			実績値	531	562		
			達成率	76%	80%		
	当該指標を選定した理由		より多くの患者が学習会に参加することで、難病患者の療養生活の質の向上につながるため。				
目標値の設定根拠・算出方法		過去学習会参加者の平均値を基に算出					

令和8年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	療養生活環境整備事業	事業番号	011-219
-------	------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。（単位：千円）

	項 目	令和5年度	令和6年度	令和7年度		令和8年度
		決算	決算	当初予算	決算	当初予算
13	事業費（a）	42,009	37,304	57,234	36,234	57,234
	財 国支出金	19,817	18,648	28,601	18,111	28,600
	源 府支出金	0	0	0	0	0
	内 市債	0	0	0	0	0
	記 その他（ ）	0	0	0	0	0
	受益者負担金(使用料、手数料等)	0	0	0	0	0
	一般財源	22,192	18,656	28,633	18,123	28,634
14	人件費（b）	4,050	7,349	8,022	8,022	7,830
15	年間経費（c）=(a)+(b)	46,059	44,653	65,256	44,256	65,064

事業費の内訳

（単位：千円）

	項 目	年度		事業費	うち 一般財源	項 目	年度		事業費	うち 一般財源
		R7	決算				R7	決算		
16	事業費内訳	報償費	R8	予算	144		R8	予算		
			R7	決算	10		R7	決算		
	役務費		R8	予算	37		R8	予算		
			R7	決算	36,185		R7	決算		
	委託料		R8	予算	57,053		R8	予算		
			R7	決算			R7	決算		
			R8	予算			R8	予算		
			R7	決算			R7	決算		
			R8	予算			R8	予算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

	区 分	単位	令和6年度	令和7年度
17	① 難病患者支援センターにおける学習会及び交流会参加人数	人	531	562
	② 上記①にかかる年間経費	千円	2,066	2,393
	③ 単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	3,891	4,258
算出についての説明等		難病患者支援センター事業決算書から該当する事業にかかる事業費及び人件費を算出		

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	疾病や就労、災害対策等、難病患者や患者家族のニーズに応じたテーマの学習会の開催及びきめ細かな相談支援を実施しており、学習会参加者の満足度は100%と非常に高い。単位当たり経費は増加しているが人件費及び学習交流会及び交流会・広場サロン費の増加によるものである。学習会及び交流会参加人数は増加しており効果があったものとする。
----	--

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	令和7年度は、学習交流会のテーマ設定や実施内容の工夫を行い、新規患者の開拓を行った。本事業の実施により、難病患者やその家族が自身の疾病について知識や理解を深めたり、療養生活における悩みや不安を軽減し、療養生活の質の維持向上や在宅での適切な医療の確保に寄与したものとする。
----	---

令和3年度からの実績等を踏まえた事業の必要性・有効性に係る所見（前年度の事務事業評価で点検対象年度を令和7年度とした事業のみ記載）

20	必要性	■ 高い □ 低い	令和3年度はコロナの影響もあり、学習会及び交流会が縮小されてはいたが、難病患者支援センターにおける学習会及び交流会参加人数は令和3年度の227人から令和7年度562人と大きく増加している。難病患者や患者家族が病状や不安について主治医に都度確認・相談することは困難であり、難病患者支援センターにおける学習会及び交流会の参加者アンケート満足度からも学習会及び交流会の必要性は高い。診療報酬で定められた回数を超える訪問看護を受ける場合、その回数を超えた訪問看護にかかる費用を公費負担する制度や、ホームヘルパー養成研修についても難病患者の療養生活の質の向上や在宅での適切な医療の確保のために必要である。
	有効性	■ 高い □ 低い	また、単位当たりの経費について令和3年度は15,507円であったが、令和7年度は4,258円となったことから効率性は高くなっている。疾病別の学習会や患者交流会を行い、難病患者の療養生活の質の向上や在宅での適切な医療の確保をめざすことを目的とした本事業は有効性が高いと考える。